

## いじめとワークライフバランス

やすなが たかお  
安永 貴夫

NTT労働組合・企画組織部長

「いじめ」を原因とした子供の自殺報道が続いている。ここに来て急に問題が発生したわけではなく、潜在化していた「いじめ」の問題が、マスコミ報道によりクローズアップされ、自殺の連鎖を生んでいるということだろう。「自殺は決して問題解決にはならない」などの自殺予防を踏まえた報道のあり方も問われている。

また、「いじめ隠し」が大きく取り上げられているが、事の本質は「いかにいじめを無くすか」「いかに自殺を防ぐか」であり、責任追及だけでは解決できるものではない。

これら一連の報道を見ていて、確かに多くの場合は学校の問題が起因しているのだろうと考えるし、「いじめのサイン・SOS」を見抜かない家庭の問題もあるだろう。

ただ、そこにもう一つの観点として「地域」のあり方が出てこないのだろうか。

残念なことに、自分の子供を「子ども会・スポーツ少年団」などの地域活動に参加させたくないとする保護者が増えているという。学校と違って「まかせっきり」にできず、お世話が伴うのが大きな理由なのだろうか。中には「役員になると困るので6年生になったらやめさせる」保護者がいるらしい。

学校と家庭だけが生活の場となっているより、地域活動という「もうひとつ」の生活の場を得ることによって、精神的な逃げ道もつくれるだろうし、違った目で「いじめのサイン・SOS」を発見する機会にもなるのではないか。

「そんな保護者はけしからん」という当該の保護者の問題だけでなく、地域活動などにたずさわりにくい環境がそうさせているとの発想が

必要なのではないだろうか。

そこでキーワードとなるのが、「ワーク・ライフ・バランス」である。(唐突?)

子育てや地域とのつながりを女性にまかせっきりにし、常態化した長時間労働などに見られる男性の働き方や家庭的責任についての意識改革に取り組む必要がある。そのためには、育児・子育てや地域活動などを女性のみの課題とするのではなく、男女がともに(シングルであっても)育児・子育てをする中で働き続けられる環境、子供を産みやすく育てやすい環境整備が求められており、男性の働き方の転換を促す制度の充実も図っていかなければならない。

NTT労組は、連合・情報労連の方針を踏まえ、今日までも様々な制度充実に取り組んで来たが、「ワーク・ライフ・バランス」の更なる推進に向け、職場の意見を収集し課題整理に向けた論議を開始した。職場からは、業務運営課題やそれに伴う人員政策の課題、育児・介護にかかわる諸制度の拡大などの意見が出されている。

これらについて年内を目途に課題を整理した上で、NTT労組としての政策立案を行い、実現に向けて取り組むこととしている。

「お父さんやお母さんは大変だから心配かけられない(相談できない)」と子供に思わせないような、子供を地域活動に参加させ保護者がお世話できるような、子供とゆっくり向き合う時間が取れるような\_\_\_\_バランスのとれた生き方の実現に向けて努力しあいたい。

自身の反省を込めて・・・